
がんばりたい

りゅう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

がんばりたい

【NZコード】

N6561A

【作者名】

りゅう

【あらすじ】

岩城誠一好物はしゃぶしゃぶ。本人は気付かないがやたらもてる
!そんなやつが主人公の切ないおはなしです!

♪ルルルーベ（前書き）

どうもはじめましてはじめて投稿をさせていただきます！
書くものでよろしくホームページですー。 。 ）
頑張って

桜並木をただひたすら走る。胸の辺りがただひたすら痛い、夢であつてほしいその思いととまこ…

俺の名前は、岩城誠一。

十四才 まあ特徴といえば親がいなくて少し勉強ができるくらいだ。
嫌味じやないぞ頑張つてんだ！ 昨日伯父さんからきいたんだが、あとひと月でドイツに行かなきゃならんらしい…

もやつぱりあいつらに伝えるのが一番つらい… あいつらひとつのは俺の幼なじみ達だ…

どうしたんさ、なんかめっちゃ落ち込んでへん？なんかあんねやつたらおれきいたんで？宿題見せてくれたやけど…。』

こいつは、井倉 裕矢 変な関

西弁喋る一応親友兼悪友だ、顔と運動神経はいいんだが頭が悪い。

『ありがと…でもあとでいいか

?まあ宿題は見せねーけどな！』

「わおーがんちゃんがお礼言つたよー、めずらすいねえ。」

こいつは、井倉 七海 裕矢の妹で俺のことをがんちゃん呼ばわりしやがる不思議ガールだ！

お前にも一緒にきてほしー…。』

七・裕

「えつ…わかった

二人とも俺が真剣だと伝わったのか、それきりだまつてくれた。

「おーいせいやーん！井倉兄妹ーー！おつみはーー！」

今あいつしてきたのが、俺のかのじょ

の 如月 春菜 底抜けに明るくていいやつだ！ちなみにラブライブだ
「うっす！」

「こいつは水島 康 春菜の
幼なじみで俺に何かとつづかかってくるが俺が負けたことはない！
『ああおはよ…おまえらも
あとで話があるんだが…あとでいつもの喫茶店でいいか？』

春

「えっ、あつうん大丈夫だよ…どうしたのせいちゃん？」
『あとでな』

春

「うんわかった」

第一話

そして放課後… 喫茶「桜」にて
『あの人… 朝

言つたことなんだけどな…

俺ドイツに行くんだ…』

「はあつ…? 驚じや… ないみたいやな…」

裕

「うそおんー…いいなあ~ 何日間行くんだい?」

『いやわからんねえ、むいひでそのまま
まかもしれねえし… 出発は一ヵ月後春休み中なんだ…』

七

「やうか… がんちゃん… 行っちゃうんだ」

春

「……皆、なにしんみりしてんの! セイカちゃん! 一度と会えないわ
けじやないんだから! そんな顔してたらダメじゃない!」

裕

「せやなー…まあこのあほの! とかうはるかー… うつて泣いてす
ぐ帰つてきよるわー!」

七

「やうだねー、んじやあと一ヵ月は遊びまくつてしまふ、ズバリそ
うでしょ?』

「ドイツか…」

康

『ありがとう……俺絶対帰つてくる

からーお前ひと友達でほんじよひ、よ、があつ、た、』

俺は泣いた……親が死んで以来だ

「こつりひと友達で本当によかつた…

裕

「こつマジ泣きやー、あやまちまはー、おこ七海』メとれ…」

七

「アイサーー兄上にこれで一生うちらの宿題奴隸としてつかわ使つのだ

あ

前言撤回… もうこつりひとやだ！

春

「ナヒねえ、ありだわー。」

いやなしだろーかのじょだよねえ？

康

「まあその辺にこことナーニのおチビちゃんは泣き虫だからまた泣く

ぞ？」「

『つるせーーこれからびるんだよーー』の…

春

「はいはーー話すおわづかえんぜー野郎ビキモーー。」

康・誠

「はーー…」

春

「あつあとせこちやんあとであたしの家来てね」

『あつ…あわかつた』

康
「…」

第一話

春菜の家です。

「あらあらあらあらよばこかしら~」

春・誠『ちざえよーー』

いきなりの問題発言をした方は星菜さんとともに「呪の母には見えない可愛い方だ！」

星

「あら、春菜ちゃんなんねえ……」

春

「お母さん……せこひやんとはなしがあるから……せこひやん」飯たべてくでしょ~」

『ああいつも』めんな~せになさんいいですか?』

星

「うふたぐさん食べていいね~」

どたどたどたがしゃーん!

はあ…やつがきた…きてしまった…

「おここちゅーん~

がしつむぎゅーひーれつばたーん…

「こつは佳菜子小学六年生。俺のことをおもひやとして扱つてやがりマス…ワンパクする悪魔だ…」

佳

「おじいちゃん いらっしゃいー。お姉ちゃんと別れるの?仕方ないなあ佳菜子が体で慰めてあ・げ・る」

『わが義理の妹よ…お前のしゃうりこがしへばこだよ…』

星

「あいあいあいあい佳菜子よかつたねえ…せこひを心配してくれてるわよ~。」

佳

「きやあ~大丈夫だよ~佳菜子ま~せこひを心配してくれんだよ~?」

春

「ミスター口コノンね…』

おこおこおこおこワタシガワルカツタナスカ?

星

「あいあいあいあい…』

春

「お母あこせこちゃんとなじがあるから…もひ端端行くな…』

なんか淋しそうだな…やつぱれいだよな…じつよつ…俺やつぱつぱつや俺が好きだ…でも…

春菜が好きだ…でも…

『あつあとせいなさんと佳菜子にも話がありますから…ではまたの
ちほび』

星

「あらあらあらあら…結婚の申し込みかしら？…ダメっそれだけはだ
め亡くなつた主人が主人があ！」

佳

「ついにわたしの魅力に気付いたのねえ！はあふう…あ・な・た」

『はあ…』

第三話（前書き）

ちょとシリアスかな？ただ主人公の切ない気持ちを入れれたと思っております…あと主人公は照れ屋なのでチエリーです！笑 この意
氣地なし！

第三話

『春菜…』

春 「はあ～ 一ヶ月かあ…」

『春菜聞いてくれ…俺な…お前がいてくれてマジで感謝してる…親がいなくて寂しかったときにもお前やお前の家族…裕矢と七海それと康もな…いつも一緒にいてくれてありがとう…』

言わないと…言わないと…春菜に…

『それでな、あと一ヶ月あるだろ?その間にお前に決めてほしい…俺はどんな結果になつてもいいから…』

春

「せこちゃん…わたしはせこちゃんの」と大好きだよ…それはかわらないと思う…でもやつぱり寂しいよ…いつ帰つてくるかわかんないんだもん…う…ひつゝ…おか…お母さんに言つてここに住めばいいじゃない」

『春菜…そんなことできなによ…わかるだろ?』「めんな…じめんな…』

俺は静かに春菜を抱き締めた。俺はズルイここで突き放せば春菜は幸せになれるのに…。

春

「『めんな…わたしうるこね…もうひとつ待つてかならず答えたすから。』

ちがう…ちがう…あることはおれだ！春菜にすべて決めさせよつと
してゐる…でも…

『うそ…』

これだけしかいえなかつた…ちへじょつ…俺は弱い…春菜…

春

「あ～…よしおやうお母さんのおこし～」飯がドキドキする
だあ…こべん誠／ぐんせつ」

『はいっ…春菜隊長…』

春菜はつよこな…くそ…でも俺は…春菜といたい…

全『いただきます』

かぢやかぢや…沈黙が痛いな…でも話すこと…

全『いりうちうわせ』

『星菜さんそれと佳菜子…話つてこのは…俺ドイツに行かなきゃ
ならないんです』

星

「あらあらあらあらそつなの…いいわねえ…あたしもいつてみた
いわあ…向日聞く行くのかしら…おみやげはソーセージがいいわあ！
ほつ」

春・誠『……』

「の人は……！」

『ちがうんです！伯父さんの仕事の都合でこいつ帰つていれるかわからなくて……それで』

星

「わいなの……本当みたいね……春菜は…どうかねの…。」

「すき！胸が痛い……答えたくない……」

『せひお話をたんですけど……まだ決まっていません』

星

「わい……わかったわ……時間が必要ね……しつかり話しあつて決めなさい……」

『はー』

佳

「おにこちゃん……もう会えないの？春菜子やだよーうひつ……いかないで……」

『じめんな佳菜子……あよいはまつかえるな……』

俺は走りだした……違う逃げたんだ……ひきしょお……

第四話（前書き）

なんか書くのになれてきました！まだまだ拙い文章ですが…生暖かく口くhaarアしながらみてください！（．．．）

第四話

市立桜東中学校

七・裕

「おはよう宿題奴隸くん」

くわいの朝から殺意が芽生えた…

『貧乳…短足め（ぼそつ）』

七・裕

「なにかいつたかな？（ぴくつぴくつ）」

『いえなにも～？』

七・裕

「まで」ひらへー…

これが俺の日常… やれやれ

春・康『あいかわらずだな～』

「…居たいそつ思える場所…あと少しか… 辛いな

「せやせやー今度皆で遊園地行かへん？（宿題奴隸の金で）」
裕

にせり

七

「わおー！ナイスなのだ兄上ー。（宿題奴隸の金で）」
にせり

おーおいなんだよそのにせり は？そつかそつかそんなに俺と離れるのが寂しいか…可愛い兄妹よのうー。

『よしひんじや俺がおーいてやるぜー！ 今週末でいいか？』

七・裕
「えつでも…」

『いいつていいつてーきこすんなよー ほらふたりともいへど』

にせり

春・康『……………にせり』

主人公なのに…

きょつで最後のテストだ！大丈夫かな？

七

「ひもじこよ～ひもじこよ～ひもじこよ～

はあ……五分も続くと「うーとおしー」春菜は帰つてしまつし……普段から勉強ぐらいいしゃがれつてんだ！仕方ない聞いてやるか……。

七

「ありがとうー やつぱりがんばやんやむすうー」

「このひを読むなうつとひじこー やつくなにものじや？」

『でなんだ？ イクラかやん妹』

七

「次その名前で呼んだらいてかますぞカスがーー！」

キヤラかえやがつた……トライアウトでもあんのか？ 悪じことじまつた
な……謝るわ……

『すまんなー マジ』めんー 七海がそんな傷つくな思わなくして
俺が悪かったのとおりだ』

俺は頭を下げた。

「ほんー（七海顔まつつかつか） 七海は考えた……同じ年の友達で人の
痛みがどれだけいるのだろう？ こやいなー この少年は特別なのだと
改めて氣付かされる……こつも一緒にいる春菜のことを考えると辛
くなる。

七

「こつこつこいわよー うちも言こすめたし逆に悪いわー じゅ、じゅ
あー 飯おごってくれたら許したるわ」

素直になれない… 辛いな…

『おつおつ、それくらいなら… でもお前顔赤いぞ、そんなに怒りせ

ちまつて悪かつたな』

鈍感チヨリ一め! いつかお前の隣を奪つからな^{ヒヨコホモカ}。

七

「じゃあ^シ飯はがんぢやんの手作りね~! 兄上も呼ぶのだ宿題奴隸
よ」

『てめつーあいつが来たら食材がなくなる~!』

何かが変わった日。

第五話 変化（前書き）

急展開つす！まじかよつてなるかも！意味不明な文ばっかり書いて
すいません！あれなんです！フイーリングなんです！…あつ自
分左利きなんで！

第五話 変化

遊園地

裕

「ほほおー…なかなかやんー誠ー|おまえしばぐぞ」

なんでー?主人公だよー皆大好きせいちゃんだよ?裕矢ー貴様さで
いすていっくか?

七

「そつねー!なかなかねー!がんちやんがいなけりゃね…」

貴様らー馬鹿にしあつてーはつーそうかそうか嫉妬か!なんとかお
れ様だけ彼女もちだし…けつけつけつーあいかわらす可愛い兄妹よ
のー?…ここは一つ大人の対応をせねばな…

『お…』

七・裕

「黙れーじぞうーおまえにサ〇がすぐえるか!」

んつモ〇?何故?ほわい?いやさすがに頭のいいおれでもわからん
ぞ?…ここは救急車を呼ぶべきだろ?うーむ…

春

「馬鹿なんだから…先いくよん せこちやんー手つな」

はついかんいかんーこんな可愛いマイスウイートハーネーがいるのに

くだらんことに頭を使っている場合ではないのだよ！

じとく…くつ七海と康から殺氣が送られてくるのは何故?ほわい?

康

(アヤハ)ハセにあんまりたしてせぬなしのに、北吹キ

七

やれやれどうなるんだろ…

全『セガーかーいむー・シムトウハデシープデシグー』

？？何か変な気が病気かな？犬？ドッグ？ほわい？

でもやつぱり皆でいると楽しいな…いかんいかんせつかく井倉兄妹がセッティングしてくれたのだたのしまねば。

『なあ春菜楽しいな！メチャクチャ楽しいぜ！』

春

「あ…うんそうだね！楽しいね！」

何故この時気付かなかつたんだろう?今にも壊れそうなガラスみたい
な笑顔に…

ドイツに行くまであと10日

第六話（前書き）

なんか読み返してみると…自分ちょっと調子のつてません？不可抗力つてやつですよ！髪なんて生えてないですよ！女の子なのにい女子なのにい！きいや～！失礼！ではでは？

第六話

デイジ&あと三日…

今田は井倉兄妹と桜公園にきている理由は…春菜が会ってくれないからだ…あと三日なにこまだ答えをもらつてな…くせつくなつ…イラつく…あと三日なにと俺の弱い心が叫ぶ…からうじて井倉兄妹のおかげで笑えてる…ははつこの一人とはすつと友達でいたい。桜に願ひ…

裕

「ふう～お前ともあと三日か…色々思い出すな…俺が転校してきたりずっとお前と一緒にあつた気がするわ…やつれつとなんやむつさ寂しけわ」

「べつにこんなこと羨みやがなった…やべつちやつよー泣きそうだ…」

『ははつお前がそんな事言つとまな…おでも、ひらぐね、ばえ、どはな、れるべ…ぬ、つめめがくわ、やびしこぞもじょー、』

ぴりつりつと

はつ？なぜ？ほわい？

またかいまたなかい? DAMASARETA?

『あ、つ貴、様ら、』

七『やつたのだよ兄上…鼻水がんぢゃんゲットだぜなのだよ』

裕

「よくやつたわが優秀なる妹よ…さて誠一よこれでまた日本に帰つてこないと行けなくなるな…なぜなら…」

七

「がんぢゃんは…ひつぐべや」

裕

「わいらの…」

七・裕『宿題奴隸やからな…』

『ぐれうう、やられだぞんなゆにつけにせんばんそくだあ…井倉兄

妹、大好きだ』

本当に願つての一人の幸せとずっと友達でいることを…

崩れる日常まであと十分…彼らはまだ知らない…あの誰よりも強くやさしい彼が深く傷ついて…

第七話 絶壁と絶交と（繪書モ）

ちゅうじだーくかなあ？ はあ萌えぬよつな恋がしたいっすよ……なん
つって！ ではではお楽しみあれ！

第七話 絶望と絶交と

絶望の時

彼らはまだ泣いていた一分一秒一生懸命…

全『ふつーあははははーこいつひつひつー』

裕

「ふう…なんかひじしげりやつたな! 泣いたし笑えたしな…」

七

「せやなーほんまにこじりんねやりなー…」

『そりだなーでも気持ち良かつたし楽しかった! 僕たちずっと友達でこよくな』

七・裕『ふつーこやかーしきみつわ』

また笑ったーこの時がずっと続けばいいー

…絶望の時まであと一分…

裕

「おつーおつーじおんの春菜やんー」

七

「ほんまやなにここんねやるへ、康くんもこぬじゅん」

『じゅあひよつと懸けいじやく齧かのいぢゃ』

そろーりんべーり

『…………が…………なん…………も…………』

『ひ…………れ…………も…………て』

康『もつね前を離れない好きだ春菜ー、愛してゆ

がばつ！一人は抱き合ひキスをした…

ひしづひしづぱつーんがらがらがらがら…五人の日常は崩れた…

がさつ

春菜

『えつひひわつーねせせこちやん』

『はつせせー、わつわつだよなー、つとわつわつだー、あはせせせせせせ
つ…くわつ』

ばつ誠ーは走りだした！

裕

「おひさしー。おひさしー。なにがなにが」とかわいい声で、

「おれがりがりー。あいりあひびかやー」

七

卷之三

「やあ、おまえ、おれのことを…おどかすな！」

したんやからなあ！！」

裕

一度とれいの前に現われんな——共!!

春
菜

「あたしつあたしつあたしつがあー。」ううううわああああああああー。」

康

いずれこうなる運命だったの今絶望の時にいる彼ら達の時が今…

第一部完

第一「ふらりーぐ

あの日すべて壊れてしまった…ある少年はすべてあきらめ…ある少年は守るため…ある少年は罪悪感と戦い…また時は動きだす…

『ふう…田本があ…裕矢と七海げんきかな?』

空港に降り立つたのは美少年いや美青年と形容していくすらっとした容姿の誠一がたつていた…

時は動きだす…希望へと…

キーンゴーンカーンゴーン

「ふい〜寝すぎたわ!腰いた〜!」

そこには高校三年生に成長した裕矢がねていた!もともとよかつたガタイがさらにでかくなり野性味あふれた青年になった

七

「兄上〜かえつぞこの野郎!」

ガラガラガラ突然入ってきたこの美少女は不思議系二重人格少女七海だ!

帰り道ひきしぶりに桜公園にきてる…

「せういえばな、あいつ帰つてへんねん」
裕

「えつ？だれなんだい？」
七

「誠」
裕

「はあつー？なんでうちきいてへん！どつどなにしよーびつ美容院
いかな！エステいかな！あとーねつネイルネイルサロンー！？」

「落ち着け」
裕

「ふあつうつまつまつ…」
七

「ふふん…実はなもう後ろにいたりしてー…」
裕

「うわ」ナードとん便所に沈めんぞ
七

『ただいま』

七

「「ひっせこーーー今取り込み中じゃおどれも沈め……え?」

『ふふつ変わつてないねえ久しぶり七海! 裕矢!』

七・裕『だれや! ? あんたみたいな男前知り合いにおらんわ!』

『なつかすういつす! なんか日本に帰つてきがするわナイスユービ
ン! でもひでえな俺だよ誠一だよ』

七・裕『まじで! ? なんで! ? 背のびすぎやん!』

『しつけえよ! ほりペンドントードイツにいく前もひつたろ? だか
ら! ただいま!』

七・裕『誠一! へへ! がんちゃん! ーーー』

七・裕『おかげり宿題奴隸! ーーー』

『いきなりかよ! ! 僕の感動を返せええ! !』

笑えてるよしつ笑てる! 楽しい! またここでこの一人と! だけど

まだ足りないおれは…おれはケリを付けるために帰つて来たんだ!

裕

「しかしました…『じつこ馬前になつて帰つてきよつたな…』

七

「（めざめこめざめこめざめ）せつ
（めざめこめざめこめざめ）せつ
（めざめこめざめこめざめ）せつ

『なんことねえよー裕矢お前の方がよっぽど馬前だなー・つんまちが
えねえ』

裕

「嫌味か…はあ～七海こいつ全然変わつとらん…安心せえまだ…鈍
感チヨリーや」

『はあ?なんだそりやー変わつてねえのはおめえらじやん…親友達
一』

全『ふつぶあつはははは

七・裕『改めてお帰り誠一これからもよろしくへつー…』

『ああ!ただいまだ!七海裕矢』

やさしくて強い誠一が帰つてきた。また絶望に呑まれてしまつのだ
るつか…それとも…

第一シーズン一話

喫茶「桜」

裕

「ひっかし、どないしたんや急に帰つてきて…友達おらんのか？」

七

「ちょっと呪上ーストレートすまますよーもつとソフトこつかない
と泣き虫がんちゃん…発動しちゃいますわよ」

『いたよー七海微妙に優しくなってるけど…なんか傷つくなー心に
ぽつかり穴が開いたよ』

七

「（ななな…やつてしもた～優しくするつもつが～あ～うちのあほ
～）“めんなせこ…”」

『？落ち込むなよ七海らしくねえぞ？まあ本当の意味での友達なら
おまえらしかいねえけどな』

七

「せうだよねー！でもあんまり調子のんなよ宿題奴隸よ（へそへど
つかに素直になれる薬ないやろか？）』

『ふふっやつぱつ変わってないねえ…やつぱつその七海のまつが俺は好きだよ』

七
「（かああああ、ほさ）まつ」

『?』

裕

「（鈍感チヨリーメ）まあ冗談はわいおれ…じつした？」

『ああ…俺大学は日本のところばかり思つてな…今日は桜東高校に転入手続きしつつてたんだよ…あとまあじつけにやり残したことがあつてな』

裕

「あの、ヨリ共の事か…」

七

「なんで…また辛い思いするかもしれないよ…つかまこせや…がんちゃんせめよつや…」

『ありがとなー七海！ 裕矢！ 俺のために怒つてくれて…でもいやなんだよ…むじうだつてきつと辛いんだよ…あいつは…やつと自分を責めてる…俺のせい…』

裕

「まあ…あんなもん自業自得やんけお前の方がよっぽど傷ついたやつ…もつあんなおまえみたないねん」

『すまん…でも今は逃げてるだけなんだ…俺はやなんだよ…誰かが誰かを憎むのが…』

七・裕『あ～あ～』

裕

『負けたわやつぱりお前は誠一だよー』のめ入好しー。』

七

『(やつぱりやつぱり)こながんちゃん…(仕方ないのよね?)』

『「ひじりじやあこめからいくかー!』

七・裕『あ～』

『はあつて…春菜さんちだよ…わかつてんじさん』

(やつぱりお前にま一生勝てんわ)

【ひんぱん】

「セーラー服が似合う」

『ご無沙汰してます俺です誠一です』

がたんばたつあぬうすぽん

全(すほん?)

星一さんちひる

卷之三

星

「みんなで」「みんなで」「みんなで」「みんなで」「みんなで」「みんなで」「みんなで」「みんなで」「みんなで」「みんなで」…「うひうひ

『あの?星菜さん?』

星

「こんなことしたってあなたにしたことが償えないってわかつてゐる
でも…でも

『 もういいんです…誰も悪くないんです…だから星菜さんが謝るこ

となんてないです！だから…ね？』

星

「あつ…あなたつて子は…ひつ…ひぐつ…でもこれだけは言わせてお帰りなさい」

『ただいま星菜さん！それとこれ……』

星

なに？あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

誠一が渡したもの…ソーセージ

ばたばたきいゝがががー。えええええんー

全(だからすぽんつてなに?)

がしの もと、も

全(でじやぶ?)

佳菜子

全(一回目はなんかな...)『まいまい...佳菜子ちゃん頬は十分苦しんだよね...でもそれは...間違いなんだよ...君が苦しいと僕はもつと

苦しこよ……だから笑つて……お帰つなさいて言つて

佳菜子

「お、お、おがえり、な、やこ、~、」

『はいただいま』

星・佳・七『はうあ~』

裕矢（）おとしやがったーはつせつせつやつぱー誠一だ
よ（）

『春菜はこるかい?』

佳『おにこちやん私おねこちやんここひどこことしきやつ
たの…おにこちやんの話聞いたらやつぱつ…その…』

『その事については「めんおれに非がある…」つまでも先のはしに
してたからな…つらかったな…本当は俺が謝らなきゃいけないのに
本当に「めんなさい』

全（一番辛いはずなのに）

裕矢

「お前が悪かつたら…俺なんて地獄に何回落ちてるか…だからお前
は笑つてみんなを救つてろこのーお人好し鈍感チエリー奴隸
『はい…』

第一二部|話（前書き）

なつなつなんとう～！感想がキタのですつ～！ぶりゅう～感激い　し
かもアドバイスまでいただいて…ワタクシうれしいです！次回から
新キャラ出していこうと思うんで…よろしこねえ

第一部 | 話

春菜の家

星菜

「でも今、春菜に会いに来きゃなこと無いの。」

だよな…勢いで来ちゃつたけど、いきなりはおびえちゃう…

『わかりました、申し訳ないですけど、星菜さんの方から言つて聞いていただけますか？康や春菜も心の準備が必要でしょ？』

星菜

「…気にしないで、お茶も出さずにおしゃくまで」「めんね…裕矢くんも七海ちゃんも…」

『いえいえ、じゃあよろしくお願ひします…裕矢、七海帰るか』

七海・裕矢
『ねつひじゅまたな佳菜子ちゅん星菜さん
ん』

佳菜子

「つんつーじゃあまた学校でねー」

ふつりつかれたなあ…あの家族変わったなかつたなあ…今春菜はや
つぱり康といるのかなあ? ははつ何考へてんだろ…

『…』

七海

「…どしたあ～がんちゃん? やつぱり辛いんじや あないかい?」

『…こやあ… 明日から学校だら～ひよつとだけ不安なんだよ…』

七海

「なんじゅあ～むか…まあ一緒にクラスになつたらパシリ決定つ
すから…（悪い虫がついたりなどないよ～）」

『マジかよー! もだよー! 転校やつつかよー!』

裕矢

「せやなあ! もすがわが妹! すべてキングな提案や! 誠一~色々教育
したるからな」

「ヤコ

『はあ～』

その後他愛のない会話をしてそれぞれの帰路に着いた。

春菜の家

春菜

「ただいま～あれっ？お母さん誰か來てたの？」

今歸つてきたのが春菜…今は康のおかげでだいぶたちなおつってきた…

星菜

「お帰りなさい…春菜…そのことで話があるの。座りなさい…」

春菜

「えつ…はー」

なんだか…こつものねねちゃんと違ひ…

星菜

「今日…せこわやんが來たのよ…」

えつ…はー…なんで…

春菜

「本当なんだね…それでその…何して」

「わー…」

星菜

「今はいいの…春菜？単刀直入に聞くわ、あなた三年前のことどう思つ？」

「こわい…こわい…」

春菜

「…………わたしは、許されないことだと思う…外国に一人で行って本当に淋しかったのは、せいちゃんのほうなのに…わたしはまた康の優しさに甘えてしまった…正直謝りにいく顔ももつてない…会うのが恐い」

最低だ私…ずっとだれかに甘えて…

星菜

「そう…わかった…今のあなたをせいちゃんにあわせるわけには、いかないわね…康ちゃんと二人話し合いなさい…」

春菜

「わかった」

佳菜子

「（おねえちゃん…）」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6561a/>

がんばりたい

2010年10月21日23時00分発行